

進化を続ける美の殿堂 ~大エルミタージュ美術館展~



「盗まれた接吻」(フランス)

© The State Hermitage Museum, St Petersburg, 2017-18

ジャン=オノレ・フラゴナール



「林檎の木の下の聖母子」(ドイツ)

© The State Hermitage Museum, St Petersburg, 2017-18

ルカス・クラナーナハ

編集・発行

大宮西高校新聞部

H29.5.22

No1082

森アーツセンターギャラリーでは3月18日(土)から6月18日(日)「大エルミタージュ美術館展

オールドマスター 西洋絵画の巨匠たち」が行われ、国・地域別に85点の名画が展示されている。

美術館展の目玉作品

「林檎の木の下の聖母子」(右)

ルカス・クラナーナハが1530年頃に描いた「林檎の木の下の聖母子」はドイツの作品だ。絵に描かれている聖母マリアは額が広く、眉毛がはっきりとは描かれていないなど当時の特徴とされている。幼いキリストは両手に林檎とパンを持っている。林檎はアダムとイブの罪のシンボルでその罪をキリストは十字架にかかり償うことになる。パンは「最後の晩餐」で自らの体と見立てたものであり、いずれもキリストによる救済のシンボルである。

一番人気の作品

「盗まれた接吻」(左)

フランスのジャン=オノレ・フラゴナールが1780年頃末に描いた「盗まれた接吻」。題名から彼女は彼に不意に接吻されているように見えるが、むしろ彼の方に身を寄せている。彼女が視線を半開きのドアに向けているのは、そこにいる人々に2人の関係を気づかれなにかを気にしている。2人の関係は禁断の愛だと考えることができる。禁断の愛ではあるが、愛する彼と一緒に居たいという女性の心理を描いている。



本物の絵画について知ることが出来ました

内覧会では監修を手がけた成城大学名誉教授の千足伸行さんが重要な作品について高校生にもわかりやすく説明をしてくれました。

高橋新聞部取材内覧会に参加をした。



成城大学名誉教授
千足伸行さん

今回の美術館展では地域別に分けて全6章の構成にしています。

絵の特徴が当時の国の背景を表しています。

例えばスペインとイタリアはカトリック教徒が多いため宗教画が際立っています。フランドル(ベルギー)は風景画や風俗画が好まれています。ヨーロッパの正統と呼ぶにふさわしい作品も出品されているので、

是非ヨーロッパ絵画の醍醐味を堪能してほしいです。

森アーツセンターギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)では3月18日(土)から6月18日(日)まで「大エルミタージュ美術館展 オールドマスター 西洋絵画の巨匠たち」が行われている。ロシアン・サンクトペテルブルクにあるエルミタージュ美術館はルーブル・メトロポリタンと並ぶ三大美術館と言われている。今回の美術館展では1万7000点の作品から17世紀の国・地域別に85点の名画が展示されている。

4月16日(日)に西高新聞部は東京の錦城高等学校、昭和第一学園高等学校と共に高橋新聞部取材内覧会に参加をした。

また一般公開では館内撮影が禁止されているが、内覧会では特別に撮影が許可された。参加した部員は「作品についての説明により、展示されている作品の背景についても深く知ることが出来てよかったです」と話した。